

注目! まちの話題



ウインターフェスティバル
それぞれの文化で
おもしろい

12月11日、とねミドリ館(生涯学習センター総和)で古河市国際交流協会主催の「ウインターフェスティバル2016」が開催されました。

会場には、中国やフィリピンなど5カ国のブースが設けられ、民芸品の展示販売や名産品の試食会が行われました。また、中学生の英語スピーチや外国人の日本語スピーチも行われ、会場内は和気あいあいとした雰囲気。

みんなで日本民謡に合わせて踊るなど異文化交流を楽しみました。



▲ステージでは、民族衣装のファッションショーをはじめ、フラメンコや中国二胡などが披露され、盛り上がりを見せました



世代間の助け合い 「りさ育てる」引き渡し会



▲抽選に臨む親子。欲しい品物を手に入れた瞬間、笑顔がはじけていました

12月8日、中央公民館で「りさ育てる」引き渡し会が行われました。この催しは、今回で4回目。子どもの成長に伴い不要となった子育て用品を、必要としている人に無償で譲り、子育て世代の経済的負担の軽減を図ることが目的です。

当日は、子や孫のために83人が来場。ベビーカーやチャイルドシート、三輪車など46品が、希望者の手に渡りました。

子育て用品の再利用は、資源の有効活用にもつながります。家庭で眠っている子育て用品がありましたら、ぜひご提供ください。



「相手の気持ちを考える思いやり」 人権問題について理解を深めました



▲発表者6人は、自身の体験で感じたことや考えを参加者に訴えました

11月15日、とねミドリ館(生涯学習センター総和)で人権について考える会が開催されました。小中学生の代表者6人が「私たちの人権」をテーマに、障がい者やいじめ、人種差別等について作文を発表。参加者は子どもたちの考えや訴えを熱心に聞き入っていました。

後半は、県メディア教育指導員の堤千賀子さんが「インターネットを悪用した人権侵害をなくそう」を演題に講演。SNSへの不適切な投稿や無料通話アプリ内でのいじめなど、インターネットを取り巻く問題への注意喚起や正しいマナーについて話しました。